



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.14 2006.11



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● イベント報告	
東アジア工学アカデミー円卓会議併催シンポジウム	1
工大祭「君はビル・ゲイツになれるか」	2
赤坂御苑 秋の園遊会	2
インスティテューショナル技術経営：システム的アプローチ	3
研究・技術計画学会 第21回年次学術大会	3
● 学生の目	
SIMOT の概念により深化するリサーチ	3
● 最近の動き	4
● イベント予定	4
● 連絡先	4

イベント報告

第10回 東アジア工学アカデミー円卓会議併催シンポジウム (2006年10月26日、27日 東京一ツ橋 学士会館)

中原恒雄 SIMOT リサーチセンター評価委員長が会長を務める日本工学アカデミーの主催により、「東アジアのインスティテューショナル・イノベーション」をテーマとする公開シンポジウムが開催されました。

本シンポジウムは1997年の発足以来10回を数え、経済発展の原動力としての科学技術のイノベーションについて毎年討議が行われ、その目的は日本の科学技術政策を吟味し、東アジアに貢献することです。

今次大会の「インスティテューションとイノベーション」のコンセプトには中国・韓国の参加者も高い関心を寄せており、その重要性が改めて確認されました。



日本、中国、韓国の各国における工学・科学技術分野の専門家により構成される本シンポジウムは、毎年、この分野における最先端の工学及び科学技術に関連する問題を取り上げて議論しております。

第 10 回の節目を迎える本年は、イノベーションを各国の共通問題として捉え、イノベーションは、社会・経済のシステム（インスティテューション）との共鳴により大きく進展するという含意の「インスティテューショナル・イノベーション」という社会経済学的な観点から討議を行いました。

シンポジウムは、基調講演および3つのセッションで構成されており、成功裡に閉会しました。

基調講演

1. “Technological Innovation of Mobile Communications and its Impact to the Society”

立川 敬二氏 独立行政法人宇宙航空研究開発機構理事長
(前 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ社長)

2. “Information Technology as a Driver of Corporate Innovation”

Michael A. Sargent 氏 豪州工学アカデミー国際委員長



一般講演

1. 『インスティテューショナル・イノベーション：現在および今後の展望』 - 狙い、目的、手段とアカデミーの役割は何か？
2. 『技術革新のダイナミズム：事例』
3. 『イノベーションと国家戦略・社会経済体質・企業の組織文化や時代の背景：ビジネス・インテリジェンス（企業の意思決定に有用な知識や洞察を産み出す組織的・系統的な仕組み）および文化と知識』 - いかにイノベーションは創造されるか？

SIMOT からは、渡辺千仞 センター長およびセンター員の保々雅世特任教授がセッションパネリストとして参加・講演を行い、幅広いご意見、ご感想を得ることができました。

「君はビル・ゲイツになれるか」 in 工大祭 2006

(2006年10月28日、29日 東工大)



東京工業大学文化祭（工大祭）において、21世紀 COE 関連出展企画として「インスティテューショナル技術経営学」の紹介をかねた「君はビル・ゲイツになれるか 2006」を実施しました。昨年に続いてエニアグラムを用いた10分間の性格診断テストの他、高校生向けの進路相談などを行いました。性格診断テストでは、事前にベンチャー起業家18名に試行していただいたデータと参加者自身の結果とを比較することで、実践的な起業・

経営に対する適性を検証しました。高校生と大学生を中心に、下は小学生から上はご年配の元社会人の方まで幅広くご参加いただき、両日合わせて220名を超える来客を得て大盛況となりました。



赤坂御苑・秋の園遊会

(2006年11月9日 東京 赤坂御苑)

SIMOT リサーチセンター運営委員 宮崎久美子教授が11月9日、東京の赤坂御苑で開かれた秋の園遊会に総務省の諮問機関である情報通信審議会委員を代表して招待されました。天皇、皇后両陛下をはじめ、皇室の方々と言葉を交わり、SIMOTの代表としても大変栄誉ある機会となりました。



インスティテューショナル技術経営: システム的アプローチ (2006年10月19日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会、国際問題分科会の月例イブニング・フォーラムに、スイス連邦工科大学 経営技術経済学部 名誉教授ヒューゴ・P・チルキー氏をお招きし、インスティテューショナル技術経営に対するシステム的アプローチについてご講演いただきました。

競争力の源泉としての技術・イノベーション経営 (MOT) の観点から、新時代 MOT (integrated MOT) のフレームワークのご紹介やシステム的アプローチについての国際比較検討が行われました。東工大での研究経験をも有する氏は、日本語もご堪能で、毛筆による直書きを披露されるなど、その内容のみならず聴衆の興味を喚起するパフォーマンスまで拝見できました。



研究・技術計画学会第21回年次学術大会 (2006年10月21日、22日 仙台 東北大学)



日本有数の MOT 分野における学会のひとつである研究・技術計画学会の第21回年次学術大会が、仙台 東北大学にて、開催されました。

本学会は、科学技術の経営・政策全般にわたる研究交流と情報交換を図ることを目的とし、SIMOT とは緊密な関係にあります。平成 18 年度には、中原恒雄 SIMOT リサーチセンター評価委員長が会長を務められており、また、2004 年には「日本型技術システム再考」のテーマで開催され、本年は「イノベーションを実現するマネジメント」がホット 이슈に挙げられました。

今年度の学術大会においても、SIMOT 事業推進担当者・特任教授・RA など、SIMOT 関係者が 30 を超える研究発表を行い、イノベーションとインスティテューションの共進化に関する研究を中心に、学外各方面に向け、報告・議論が活発に展開されました。



SIMOT の概念により深化するリサーチ

東京工業大学大学院社会理工学研究科
経営工学専攻博士課程2年 Korrakot Yaibuathet



SIMOT の授業では、イノベーションとインスティテューションの共進的ダイナミズムという新しい概念を主題に議論しています。様々な分野の研究にこの概念を結合すると、知識の新しい側面が展開します。共進化の概念を組み入れた興味深いケーススタディの数々は、この概念に対する学生の理解を深め、今後は、個々の学生の研究領域において、学際統合的な観点を提供できるでしょう。

私の研究では、日本・中国およびタイの3国におけるサプライ・チェーンのオペレーショナル・パフォーマンスの国際比較を行っており、SIMOT 概念の、特にインスティテューションの3軸の包括的理解が、私の研究にとって非常に有益であると思います。各国の制度上の環境/背景を理解できれば、議論の展開がし易くなります。さらに、『サプライチェーンマネジメント (SCM) の改善は、適切なサプライ・チェーン・イノベーション、インスティテューションに関する理解、そしてインスティテューションへの適応の3者間の共進化の概念とシンクロしなければならない』との結論が導かれます。これは、SIMOT の授業により得られた知見のひとつです。加えて、日本におけるイノベーションとインスティテューションの共進的ダイナミズムの関係に焦点を当てたアプローチにも、私は興味をもっています。こうしたアプローチは、かつて日本が果たしたように、世界の国々が経済を再活性化するガイドラインになりうると思います。

■ 最近の動き ■

- 海外出張 渡辺 11月16日～20日 オーストラリア シドニー（豪州工学アカデミー年次総会出席）

■ イベント予定 ■

研究・技術計画学会 国際問題分科会 11月例会

- 日時 11月27日（月） 18:00～20:00
 場所 東京工業大学 百年記念館 第2会議室
 テーマ グローバリゼーションの経営戦略の課題：MITチームによるイノベーションの弁証法的展開
 インスティテューショナル技術経営学への示唆
 講師 依田 直也 氏（立正大学経営学部教授、元株式会社東レ経営研究所代表取締役社長）

大学院社会理工学研究科創設10周年記念式典・記念祝賀会

- 日時 11月29日（水） 13:30～17:45
 場所 東京工業大学 大岡山西9号館 デジタル多目的ホール（記念式典）
 同 西9号館 コラボレーションルーム（記念祝賀会）
 来賓 相澤益男 東京工業大学長、ジェームズ・C・アベグレン グロービス経営大学院大学名誉学長・教授、
 ヒュー・リチャードソン 欧州連合（EU）駐日欧州委員会代表部大使 他

MOT特別セミナー

- 日時 12月8日（金） 15:10～16:40
 場所 東京工業大学 大岡山西9号館 607号室
 テーマ How to Capture Success Under Economic & Political Crisis: A Real Harvard Case Study
 講師 Ferit Sahenk 氏 (President of Dogus Group Companies, Turkey)

Mr. Ferit Sahenk は、37歳の若さで、トルコで最大級の銀行、建設、メディア、娯楽産業等の多くの企業を傘下に有するコングロマリッドである Dogus グループの COE です。今回のテーマは、彼の採用した事業戦略等がハーバード・ビジネススクールのケース教材になり、ご本人がそのケースについて語るという貴重なものです。

第3回年次国際シンポジウム

- 日時 2月27日（火）、28日（水）
 場所 東京工業大学 大岡山西9号館 デジタル多目的ホール
 テーマ イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明
 主な基調講演予定者

- Dr. Norman Neureiter (Director, Center for Science, Technology and Security Policy American Association for the Advancement of Science)
- Professor Robert Burgelman (Graduate School of Business, Stanford University)
- Prof. Luke Georghiou (マンチェスター大学)
- 村上 憲郎氏 (グーグル株式会社 代表取締役社長)
- 稲葉 善治氏 (ファナック株式会社 代表取締役社長)

●● 発行 ●●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
 「インスティテューショナル技術経営学」 SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
 西9号館 208B号室
 TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
 Email: nakane.m.aa@m.titech.ac.jp
 URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>
 編集者: 菊池 隆